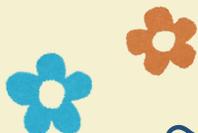


—こころ通信—

いっぽいっぽ



Vol.33

2026年2月発行

地方独立行政法人広島市立病院機構
広島市立リハビリテーション病院
広島市立自立訓練施設

広 報 誌



～病院長ご挨拶～



新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、スポーツの分野では大谷翔平選手のワールドシリーズ連覇という歴史的な快挙があり、また大阪万博の開催、宇宙開発やAI技術の飛躍的な進歩など、世界が大きく前進する出来事が数多く見られた一年でした。国内においても新政権が本格始動し、医療を含む社会制度の在り方があらためて問われる中で、新しい時代への移行を感じさせる年でもありました。

そのような社会情勢の中、当院の歩みも決して平坦なものではありませんでした。しかしながら、日々の診療現場での判断や工夫、多職種間の連携を積み重ねた結果、昨年末には病床利用率98%という非常に高い実績を達成することができました。これは、職員一人ひとりがそれぞれの立場で責任を果たし、互いに支え合ってきた証であり、当院の持つ団結力と現場力が示された結果であると感じております。

さて、本年の干支は「午」です。馬は古来より、人とともに歩み、遠くまで力強く進む象徴とされてきました。時には困難な道のりであっても、しっかりと足元を踏みしめ、一步一步着実に前進していく姿は、まさに本年の当院の目標そのものと重なります。本年6月には診療報酬改定を控え、医療を取り巻く環境はさらに変化していくことが予想されますが、私たちはまず足元を固め、地域に必要とされる医療を着実に提供し続けることで、信頼を積み重ねていきたいと考えております。

また、ホームページのリニューアルをはじめ、当院の取り組みや特色を積極的に発信し、地域の皆様や関係医療機関の方々に、より身近な存在として感じていただけるよう努めてまいります。

本年も広島市立病院機構の一員として、地域住民の皆様、そして医療機関の皆様のお役に立てる病院であり続けられるよう、職員一同力を合わせてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

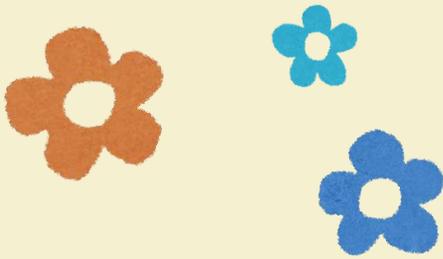
令和8年正月 病院長 竹下 真一郎



摂食嚥下障害に対する当院の取り組みについて



VF後のカンファレンスの様子



当院では摂食嚥下障害のある方々それぞれに対して、医師、歯科医師、PT、OT、ST、管理栄養士、看護師、介護士といった専門職がチームを形成し連携して包括的なサポートを行っています。365日毎日、言語聴覚士が関わることで能力に応じた食事を迅速に提供するなど、入院中から継続的かつきめ細やかな介入を行っています。

月～金まで毎日嚥下造影検査（VF検査）を実施できる体制を整えており、状態の変化を的確に評価しながら、タイムリーな対応を行っています。さらに、必要に応じて嚥下内視鏡検査（VE検査）を併用することで、より詳細で安全な評価を実施します。

入院中だけでなく、退院後も外来リハビリテーションを通じて継続した支援を行い、入院から退院後まで切れ目のない嚥下リハビリテーションを提供し、安心して「食べる」を続けられる生活を支えます。また、外来で嚥下造影検査（VF検査）が実施可能な点も大きな特長です。

～嚥下リハに用いる機器の紹介～

従来の嚥下リハは、嚥下関連筋群の随意運動訓練、筋力強化、姿勢調整といった、筋肉主導型のアプローチが中心でした。ジェントルスティムは、嚥下反射のトリガーとなる感覚神経・中枢神経回路に電気刺激で働きかけるという、神経主導型のアプローチを採用しています。「動かす」ではなく「反射を起こしやすくする」「神経の反応性を高める」事を目的としています。高齢者や中枢性障害では、筋力はある程度残存しているが、嚥下反射が遅れる/出てこないというケースを多く認めます。ジェントルスティムは、上喉頭神経などの、嚥下感覚入力系を刺激、延髄の嚥下中枢を賦活することで、嚥下反射の惹起そのものを改善する可能性を狙っています。皮膚表面からの刺激が小さく、痛みや不快が少ない設計で、高齢者や重症症例にも適応しやすいです。意思疎通が困難な症例や、能動的訓練が難しい症例にも実施可能であり、軽度～重症まで様々な段階の嚥下障害リハビリに対応しやすい点が特徴です。



ジェントルスティム本体



ジェントルスティム装着

MRIが新しくなりました！



MRI検査の予約枠には、余裕があります！

令和7年4月より新型MRI装置に更新され、早くてきれいな画像が撮れます。

頭部・頸椎・胸椎・腰椎 股関節・肝胆膵臓・腎臓・骨盤部、そして四肢の骨だけでなく皮下腫瘍を主に撮影しています。

近隣の約20施設の病院様や、広島市民病院から検査依頼を受け、今年度は400件以上に増加しています。しかし、撮影時間が短くなったため枠には余裕があります。

MRI検査を行う上で様々な御相談を承り、進めてまいりますのでお気軽にご連絡ください。

放射線科：082-849-2853（直通）



回復期後に『自立訓練』という 選択肢があります！

自立訓練施設では、病気や事故などにより身体に障害のある方や高次脳機能障害のある方に、就労・復職といった社会復帰するために必要な支援や、自立した地域生活に向けた実践的な取り組みを行っています。

今回は、訓練プログラムの1つである「高次脳機能改善グループ」について、ご紹介します。

高次脳機能障害がある方が家庭や職場などの場面で、今までできていたことがうまくいなくなり、日常生活や社会生活に支障をきたすことがあります。高次脳機能障害は、ご本人も周囲の人も症状に気づきにくく、周囲から誤解されてしまうことがあります。

そのため、高次脳機能障害がある方にとって、まずは障害に対する自己理解を深め、ご自身の課題を把握することがとても重要です。

「高次脳機能改善グループ」では、5から6人でグループを作り、高次脳機能障害の症状等についての講義を行ったり、日常生活で困っていることや工夫していること等を他者と意見交換をしながら、軽作業やプリント課題、模擬的な外出や調理の計画等を立案することで、自己理解を深め、課題の把握を促します。

新規就労を目標にされている方を対象に、履歴書の記入や模擬面接の体験などにも取り組んでいます。



～自立訓練施設のInstagramがあります！～



JIRITSUKUNREN_HIROSHIMA

施設の日常の取り組みや行事などを発信しています。ぜひご覧ください！



当院の介護士は全員『介護福祉士』の有資格者です！

介護士は入院中の患者さんが安心して日常生活が送れるように、食事や排泄・移動などの身の回りの支援を行っています。

患者さん ひとりひとりの体調や生活状況に目を向け、「できること」を大切にしながら、その人らしい生活を支えています。

当院では、リハビリ時間以外でも必要に応じて個別訓練やレクリエーションを行い、日常生活につながる動作の維持・向上に取り組んでいます。

入院中の生活から退院後の生活までを見据えて、患者さんにご家族に寄り添いながら『できることを増やしていける』ことを目標に介護を行っています。



一緒に作成



カラオケ大会



書き初め

この写真は年末年始に患者さんと一緒に行ったレクリエーションです！



クリスマスコンサートを開催しました

広島市消防音楽隊の方々をお招きしてクリスマスコンサートを開催しました。

大迫力の生演奏のおかげで、楽しいひと時を過ごすことができました。



お問い合わせ・アクセス



広島市立リハビリテーション病院・自立訓練施設
〒731-3168 広島市安佐南区伴南一丁目39番1号

TEL (082) 848-8001 (代表)
FAX (082) 848-8003